

■論文題目	地方大学出身女性の職業キャリアについての考察		
■氏名（学籍番号）	工藤 美桜（0412022305）		
■指導教員	吉野 英岐	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	職業キャリア	ライフイベント	地方大学出身女性

1. 研究の背景と目的

地方大学出身女性は、大都市圏大学出身女性と比べて、高校から大学への進学時及び大学から就職時での選択肢が少ない。そのため、職業キャリアを形成する上で、様々な制約を受けている。さらに、大学時のキャリア教育の有無が職業キャリア形成に影響を与えたり、進学・就職・結婚・出産・子育て・介護等のライフイベントが女性の職業キャリア形成を中断させたりする可能性がある。そこで、本研究では、地方大学出身女性に、上記のような制約が与える影響を明らかにする。

2. 研究方法と対象

本研究では、地方大学出身女性を対象とした聞き取り調査とキャリア形成に関する既存データの分析を行う。聞き取り調査では、地方大学の1つであるZ大学出身の30代から40代女性10名を対象とし、対面方式もしくはオンライン方式で実施した。調査内容としては、ライフコースに関連する質問、キャリアプラン・ライフプランに関する質問、キャリア教育に関する質問、就業に関する質問等である。これより、地方大学出身女性が持つ特質を明らかにし、大都市圏大学出身女性を対象とした既存研究と比較検討を行う。

また、キャリア形成に関する既存データの分析では、Z大学で実施されているアンケートより大学におけるキャリア教育の実態と評価を把握する。さらに、国公立大学9校を取り上げ、キャリア教育科目の有無とその評価結果開示の有無をHPより把握する。

3. 聞き取り調査結果

調査対象者を、a 地方在住の未婚、b 地方在住の既婚子なし、c 地方在住の既婚子あり、d 大都市圏の在住既婚子なしに分類した。分類に関わらず言えることは、高校時代から現在まで、ほとんどの女性が具体的なキャリアプランやライフプランを持っていないことである。加えて、大学在学時に十分なキャリア教育を受けておらず、入社後に職業キャリア形成をする上での障壁を認識している女性が大半であった。

続いて分類ごとにみると、aは、社内での働きやすさや男女格差等の課題点を抱えながらも、転職をせずに就業を続けられたのは、ライフイベントによる障壁が少ないことや、社内での環境の変化があったからだと言える。bは、後々、出産等を望んでいることから、雇用形態や仕事と家庭の両立に不安を抱いていた。cは、仕事と子育ての両立に関することで、不安点や課題点を抱えており、実際に仕事と子育ての両立に苦勞しながらも、キャリアチェンジを選択したり、生活しなれた環境で子育てを続けたりしながら、就業継続している。そのうち1名は、産休育休後に男女の昇進スピードに差がある現実に直面し、同期の男性とポジションの差があることに悔しさを覚え、昇進意欲が向上している。dは、具体的なキャリアプランを持っていないが、学生時代から地元にとどまる意識はなく、大都市圏での就業を続け、結婚以前も結婚以降も男性社会でのポジションの確立や男女格差等に悩みながらも、厳しい社会で比較的高いキャリア観を持ち、生き抜いている。

4. キャリア形成に関する既存データの分析結果

Z大学において、キャリア教育科目が正課として置かれているにも関わらず、キャリア教育科目を履修したという認識がないことや、キャリア教育科目に満足していない人が一定数いることが明らかになった。

大都市圏大学出身女性のキャリア意識に関する既存研究として、宇田（2021）は、20代から40代の短大卒業女性を対象に、職業キャリアを形成する女性の心の動きを含めた変化のプロセスを研究している。島（2018）は、首都圏女子大学四年生を対象に追跡インタビューを行っており、学生時代と入社後の意識変化を研究し

ている。永瀬・守泉（2011）は、仕事と家庭の両立という課題に直面する年齢層の首都圏大卒女性を対象に、就業継続の障壁について研究している。

聞き取り調査結果と既存研究を比較すると、出産後の転職に関して、大都市圏大学出身女性はキャリア面が影響を与え、Z大学出身女性は子育ての面が影響を与えているようである。加えて、両者ともに、出産が女性の職業キャリア形成の障壁になる可能性があると予想し、家族形成を躊躇していた。実際に、出産により職業キャリア形成のスピードを制御しなければならない点や、社内で既婚者ありの女性より未婚の女性もしくは既婚者なしの女性がキャリアアップしている現状があることを示唆している女性がいた。

5. 考察と提言

Z大学出身女性は、明確なキャリアプランやライフプランはないものの、昇進・結婚・出産・復職・転職という職業キャリアの転機やライフイベントに対して、それぞれの女性が直面し、悩みながらも前に進んでいる様子であった。その中で、特に、女性の職業キャリア形成にマイナスの影響を与えているのは、大学での教育の不十分さ、周囲の期待の薄さ、ライフイベントによる障壁である。

Z大学出身女性は、大学時代に十分なキャリア教育を受けておらず、社会人となってから職業キャリア形成に影響を与える障壁に直面していた。また、キャリア教育科目の履修認識の低さと、キャリア教育科目の内容の不充実さが確認された。学生時代にどれだけ社会の現実に向き合えるかが、将来につながるキャリア形成の動機付けやキャリア意識・キャリア観の醸成に必要だと考える。学生時代に、社会の現実に向き合えなかった女性は、女性の先輩社員の姿などから学び、自身に吸収しているように感じられた。

また、地方出身女性は、進学時や入社後の周囲からの期待値の低さがキャリア意識の醸成に繋がっていると推測する。周囲からの期待値の低さが、女性自身の限界を決め、高いキャリア意識を持っていないようにさせているのではないかと考える。Z大学出身者には、キャリア形成意識が高まらない中でも、昇進意欲や高いキャリア観を持ち就業している女性が数名いた。それには、周囲からの期待と支援、男女差の現実に向き合えなかった女性に比べて強い強さにより実現されていると感じられた。

さらに、大学の所在地に関わらず多くの女性が、就業とライフイベントの両立に苦労している。特に、出産が職業キャリア形成に影響を与えていることがうかがえた。また、結婚はしていても子を持つ選択していない女性や、今後、結婚を選択することはあっても子を持つことはないと考えている女性がいた。これは、出産が女性の職業キャリア形成の障壁になる可能性があると予想しているからだろう。

地方大学出身女性が、選択肢の少ない中で自己実現していくためには、大学時代のキャリア教育の充実と、就業継続の障壁となるライフイベントへの支援を充実させる必要がある。地方においても大都市圏においても、就業とライフイベントの両立に悩んでいるが、地方の方がより就業継続の障壁が高いと感じられた。大都市圏に所在する大学や会社で行われている教育や支援より、さらに質のよい教育や支援が地方で行われることで、地方大学出身女性は就業継続や職業キャリア形成の実現が可能になると思われる。

参考文献

宇田美江, 2021, 「青山学院女子短期大学卒業生のキャリア形成と自己啓発: 卒業生へのアンケート調査およびインタビュー調査から」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』29号, 青山学院女子短期大学総合文化研究所: 73-98

島直子, 2018, 「女性のキャリア意識の変化: 『女子大学生追跡ヒアリング調査』より」『NVEC 実践研究』8巻, 国立女性教育会館: 128-141

永瀬伸子・守泉理恵, 2011, 「1990年代から2000年代に大卒女性の就業継続行動はどう変わったか: 26~33歳を対象とした聞き取り調査より」『生活社会科学研究』17号, お茶の水女子大学生活社会科学研究会: 1-21